

2024年12月3日



『朝礼時講話～報告事項』

(1) 講話概略【光寿苑にH氏あり！】

今日は講話というよりも、「思いを語る」というものになるかも知れませんが、何とかお聴きいただければと思います。

先月も触れた事ではありますが、37年の長きに渡る時間、光寿苑を支えてくれたHさんが今月いっぱい退職となります。私が子どもの頃、行事などが多く、光寿苑に来ることが度々あったのですが、そんな時、私の父である受宣初代苑長が、

「Hく～ん、Hく～ん、

と、高らかに呼んでいる声が苑内や苑庭に響き渡っていた場面によく会ったものでした。それは、絶大な信頼があればこそその呼び声だったのだと、後から知ります。

受宣苑長亡き後、入社した私もまた、Hさんの凄さに驚かされてきました。

いつも冗談を言っただけで、場を和ませる人柄。他人からの依頼や相談事には、決して嫌な顔や言葉を出さず、すぐ取り掛かってくれる対応力。何でも直してしまう高い技術と手先の器用さ、そして発想力の豊かさ。謙虚でいて、職務を全うする姿勢。これが37年間変わらなかったというのも、本当に尊い人の姿です。唯一無二の存在であります。

普段は優しく穏やかな性格の一方で、ここぞという時には信念を持って取り組む人でもあります。平成19年2月、雪見そりがドキュメンタリー映画の撮影に併せて14年ぶりに復活した時の忘れられないエピソードがあるのですが、破損していたソリも修復し、地域の方々に声を掛けてソリを引くためのボランティアも揃い、湯本住民の方々と光寿苑の機運も見事に上がっていった雪見そり滑走の前日、まさかの70年ぶりの小雪という大問題が起きていました。それまで降った雪が其々の民家の軒下に何とか残っている程度。私は打合せの場で「これは中止するしかないですかね…」とボソッと発言したのですが、その時、Hさんはキリッとした表情でこう語ってくれました。

「ここまで準備してきて、これだけの人を巻き込んで、ここで中止はあってはならないと思います。軒下の雪を人力と除雪機でかき集めて、雪の道を作りましょう。」

その熱き思いと発想力に心動かされ、湯本住民の皆さんやボランティア、家族会、職員みんなで約600mの雪道を作り上げたのです。雪見そり滑走をする前に、感無量の心境に至っていました。映画監督からは、「これは純白なる人の道だ」と言わしめたほどの感動的な復活劇となったのです。

心はつながって道となるという事を、信念を持って教示し続けてくれたHさんに、感謝の念でいっぱいです。これまで全力で光寿苑を支えて下さり、本当にありがとうございました。

(2) 連絡事項

【講話+②③ = 理事長、① = 事務課長、④=H職員】

- ① 令和6年度の職員のストレスチェックがあります。宜しくお願い致します。
- ② 各部署・各ユニットの下半期目標が仕上がりましたので、後日、其々配布します。全員、必ずお目通し下さい。
- ③ ひなたぼっこの職員1名が先週土曜日、そして通いのお年寄り1名が昨日コロナ陽性となりました。拡大を防ぐため、今週いっぴいの通いサービスをお休みとしています。
- ④ 昭和に入社して、平成そして令和と、長い時間お世話になりました。1月で64歳を迎えますが、人生の半分以上を光寿苑で過ごしたことになります。色んなことを経験させてもらいましたし、本当にお世話になりました。残り1ヵ月弱ありますが、宜しくお願い致します。